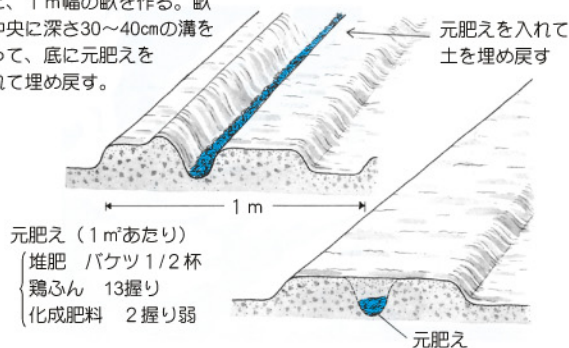


夏まきキュウリ

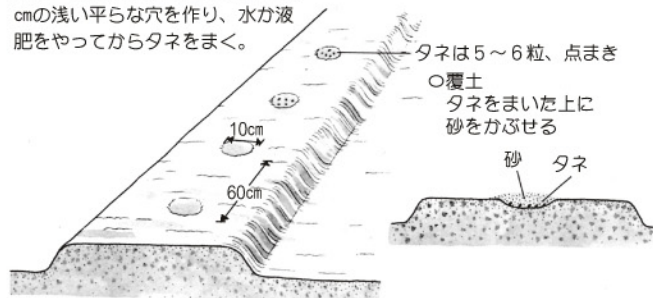
1 畝作り

苦土石灰を施した7～10日後に、1m幅の畝を作る。畝の中央に深さ30～40cmの溝を掘って、底に元肥えを入れて埋め戻す。



2 タネまき

5月上旬～6月下旬に、畝の中央に、株間を60cmとって、直径10cmの浅い平らな穴を作り、水か液肥をやってからタネをまく。



3 間引き

発芽後、本葉が1枚のときと本葉が5枚のときに間引きを行い、本葉7～10枚のときに最後の間引きをして、よい苗1本にする。

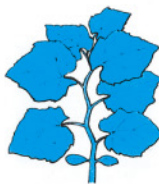
○本葉1枚の時
3本にする



○本葉5枚の時
2本にする



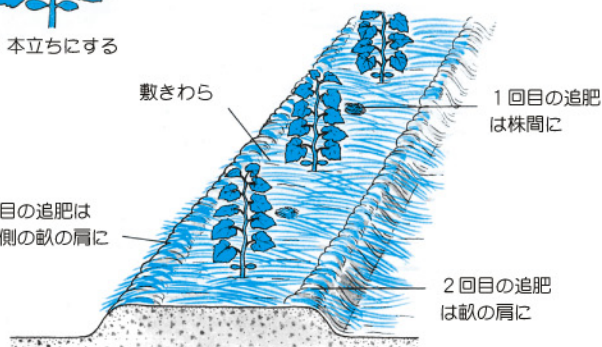
○本葉7～10枚の時
1本立ちにする



4 追肥と敷きわら

本葉10枚のころ、化成肥料2握り弱を施し、その後20～25日ごとに同量を施す。梅雨入り前に敷きわらをし、さらに梅雨明け前に敷きわらを厚くする。

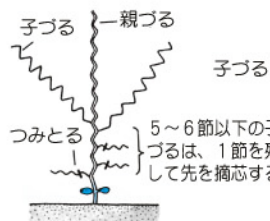
3回目の追肥は
反対側の畝の肩に



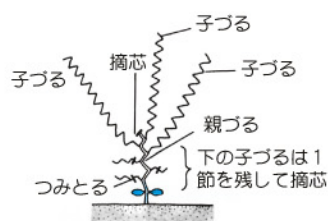
5 整枝の仕方

本葉5～6枚になったら、地這い種以外は、支柱を立て、誘引、結束をしながら、整枝をする。支柱の立て方は、春キュウリと同じに行う。

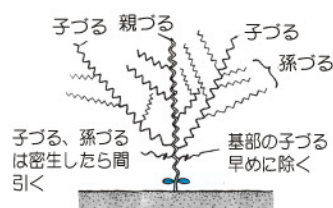
○白イボ系品種の整枝の仕方
親づると親づるとの5～6節目から出た子づるを伸ばす



○黒イボ系品種の整枝の仕方
親づるは5～8節で摘芯 子づるは3本を伸ばす



○四葉系品種の整枝の仕方
親づるとの5～6節目から出る子づる2本を伸ばし、基部からの子づるは早めに元からつみとる



○地這いキュウリの整枝の仕方

支柱を立てずに、地面に這わせる
主枝は8～10節で止め、子づる4本と、その孫づるを出させて、実をならせる

